

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その二）

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

◇問題用紙は十枚、解答用紙は一枚。 ◇答えはすべて別紙解答用紙に書きなさい。

◇抜き出しなど字数指定の記述問題は、句読点その他の記号も一字に入れます。

◇選んで答える問題は、記号で答えなさい。 ◇なお、設問の都合上、一部表記を改めた部分があります。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

専門家の繰り出す表現がときに難しいものになるのは、難しい言葉が無駄にこねくり回しているから——本当は分かりやすく言えるのに、敢えて好きこのんで難しい言葉を用いているから——というケースも確かにあるが、そればかりではない。

1 医学であれ、工学であれ、法学等々であれ、専門家が扱う問題は、まさにその道の専門家が必要であるほどに、そもそも難しい。複雑な問題があるがまさに正確に捉え、解決の a ホウトを正確に言い表そうとするならば、その表現はおのずと複雑で、繊細なものになっていく。

もっとも、専門家は常に難しい言葉の使用に終始していればよいというわけではない。専門家と市民との十分なコミュニケーションは本当に重要であり、そこでは難しい言葉はしっかりと噛み砕かれるべきだ。ただし、その前にまずもって、専門の領域において突き詰めた思考と表現が必要なのだ。

また、種々の社会問題の込み入った中身に分け入ったり、人間の心理の微妙な變を分析したり、古来受け継がれてきた世界観や価値観の内実を浮き彫りにしたり、といった場合にも、慎重に繊細に言葉を練り上げることが必要となる。そうやって b フシンすることではじめて表現できることがあり、その表現によってはじめて見えてくるものがあるのだ。そして、そのような c ジッセンが可能であるためには、言語という巨大な文化遺産の奥深くにアクセスし、その膨大な蓄積を利用しつつ、変更を加えたり新たなものを付け加えたりしていく道が、私たちに確保されていなければならない。つまり、(Ⅰ)〈やさしい日本語〉ではなく(Ⅱ)「精密コードとしての日本語」を用いることが、そこでは可能でなければならない。

しかもそれは、各分野の専門家や、あるいは作家といった職業の人に可能であればよい、というものではない。〈精密コードとしての日本語〉の使用が私たちのうちのごく一部に限られてしまえば、そこに大きな知的格差や、あるいは権威・権力の d 偏りが生まれ、日本語は非民主化されてしまうことになる。また、そもそも、過去の言葉の蓄積を理解できる人が少なくなれば、その分だけ遺産自体が先細り、朽ちていってしまうことになる。

要するに、言葉は常に伝達のための手段であるわけではなく、しばしば、言葉のまとまりをかたちづくること——表現を得ること——それ自体が目的となる場合がある、ということだ。その点で、「日本語母語話者にとって最も重要な日本語能力は、「自分の考えを相手に伝えて、相手を説得する」ということである」という、2 同書で繰り返されている主張は、言葉の働きの一方を強調し過ぎているように思われる。もちろん、その種のコミュニケーションスキルもきわめて重要だ。しかし、これがほかの何よりも重要であるというわけではない。すなわち、その種のコミュニケーション「自分の考え」それ自体を生み出すことも同じくらい重要な言葉の働きなのである。

それから、言語の簡素化と平明化を推進することが、必ずしも言語の民主化につながるとは限らない、という点も強調しておくべきだろう。

多様な人々の間で用いられる共通言語を意図してつくり出す際には、一般的に、語彙と文法を制限して学習や運用のコストを減らすという方法がとられる。しかし、人工的な共通言語のこうした特徴は、たとえばジョージ・オーウェル（一九〇三—一九五〇）の小説『1984』に登場する、全体主義国家の公用語（Ⅲ）「ニュースピーク」の特徴と似通っている。

本書第一章でいくつか具体的な事例を通して確認したようにに、3 多くの言葉は、物事に対する特定の見方、世界観、価値観といったものを含んでいる。（たとえば、「土足で踏み込む」「かわいい」「しあわせ」など。）言葉は思考を運ぶ単なる乗り物物なのではなく、ある種、「思考が言語に依存している」（『1984』四六〇頁）とも言えるのである。そして、件の全体主義国家は、言語のこの特徴を最大限に利用している。すなわち、旧来の英語を改良した「ニュースピーク」なる新しい言語を発明し、その使用を強制することによって、国民の表現力や思考力を弱め、全体主義に適う物事の見方に嵌め込むのである。

ニュースピークの具体的な設計思想は、文法を極力シンプルで規則的なものにする、こと、そして、体制の維持や強化にとって必要な語彙を削減し続けることである。小説の登場人物の口からは、「年々ボキャブラリーが減少し続けている言語は世界でニュースピークだけだ」（同書八二頁）とも語られている。たとえば、「good（グッド）（良い）」という言葉の程度を強めるのに「excellent（素晴らしい）」とか「splendid（見事）」といった言葉があるのは無駄でも、「plusgood（+良）」とか「doubleplusgood（++良）」という言葉で十分とされる（同書八一頁）。作者のオーウェルは、小説の「フロクとして「ニュースピークの諸原理」を詳細に著しているが、そこで彼は次のようにも綴っている。

我々の言語と比較してニュースピークの語彙は実に少なく、さらに削減するための新たな方法がひっきりなしに考案され続けた。ニュースピークは他の言語と異なり、年々語彙が増えるのではなく、減少し続けたのである。選択範囲が狭まれば狭まるほど人を熟考へ誘う力も弱まるのだから、語彙の減少はすなわち利益であった。（同書四七三―四七四頁※原文を基に一部改訳）

じっくりくる言葉を探し、類似した言葉の間で迷いつつ選び取ることは、それ自身が、思考というものの重要な要素を成している。逆に言えば、語彙が減少し、選択できる言葉の範囲が狭まれば、その分だけ【 X 】ことになり、限られた語彙のうちに示される限られた世界観や価値観へと人々は流れやすくなる。ニュースピークとはまさに、その事態を意図した言語なのである。

語彙と文法の制限によって簡素化・平明化を実現したニュースピークは、淀みのない<sup>f</sup>滑らかなコミュニケーションを人々に可能にさせるが、しかしその事態は、人々がこの言語によって飼い慣らされ、表現力・思考力が弱まり、画一的なものの見方や考え方に支配されることを意味していた。

【 A 】、これは小説のなかの話であり、ある種の思考実験に過ぎない。（とはいえオーウェルは、二〇世紀前半に猛威を振った現実の全体主義国家の言語政策やプロパガンダなどを手掛かりに、ニュースピークを周到に構想したわけだが。）

【 B 】、〈やさしい日本語〉はニュースピークのようなものだ、と言いたいわけでもない。ニュースピークは、全体主義に適わない世界観や価値観を表現する言葉を積極的に廃止し、「ありとあらゆる他の思考様式を完全に排除すること」（同書四六〇頁）を明確に意図して設計されている。その一方で〈やさしい日本語〉は、地域に住む人々の多様な背景を尊重し、相手の立場に立ったコミュニケーションを推進することを目的としている。それゆえ、人々は〈やさしい日本語〉の使用によって、画一的なものの見方どころか、多角的なものの見方を獲得できる可能性が大いにあるだろう。

【 C 】、仮に〈やさしい日本語〉が全面化するとすれば――つまり、いかなる場面でも〈やさしい日本語〉の使用が推奨されたり要求されたりするとすれば――その際にはこの言語はニュースピーク的なものに近づくことになる。誰か（言語学者？国の機関？）が意図して減らした語彙と表現形式に従ったかたちであらゆる報道がなされたり、あらゆるレポートや論文が書かれたりするようになれば、どのような語彙や表現形式が制限されるかに応じて、思想的な偏りが生まれたり強まったりするだろう。また、たとえば価値中立的な言葉や政治的に中立的な言葉だけを用いる、といった方針を採ったとしても、言うまでもなくその方針自体が、一種の思想的な偏りを示すものとなる。

そして、それ以前に、〈精密コード〉としての側面を失った日本語は、それを使用する者の表現力や思考力を著しく弱めてしまうことだろう。

【 D 】次のような想像をしてみよう。あるとき日本に<sup>g</sup>センセイ的な国家が誕生して、今後はニュースピークならぬ「新日本語」を公用語として定めることを思いつく。そして、言語学者たちに対して、旧来の日本語とは異なり語彙も文法も極力シンブルなものになるように「新日本語」を設計せよ、と命じる。そこで、たとえばその言語学者たちは、「駆ける」と「走る」は本質的には同じ意味だから、今度の新しい言語では「かする」という一種類の言葉で済ませよう、と決定する。<sup>4</sup>このひとつの決定によって、果たしてどのような影響が生じるだろうか。

注意すべきなのは、この架空の新語「かする」は、「駆ける」と「走る」の両方の意味をもつ多義語ではない、ということである。そうではなく、「駆ける」と「走る」に共通する意味だけを<sup>h</sup>チュウシュツして「かする」という記号列に割り当て、他の部分はすべて切り捨て、というのが、<sup>i</sup>トウガイの言語学者たちの方針なのである。それゆえ、もしもこの方針通りにしたとすれば、その新しい言語においては「自分の足で素早く移動する」という類いのことを意味する単語「かする」だけが残り、「駆ける」や「走る」というそれぞれの言葉に含まれていた他の意味が失われることになる。

― 中略 ―

また、「駆けずりまわる」「駆けつける」「駆けめぐる」「駆け出し」「駆け落ち」「 Y 」「小走り」「使い走り」「突っ走る」「才気走る」「口走る」等々、それぞれの言葉が他の言葉と結びつくことでもつ多様な意味も、「かする」では担うことができない。

「駆ける」と「走る」を廃止して「かする」に統一するように、類似した言葉を新しい「単」の言葉に置き換えていけば、その「新日本語」の語彙は、旧来の日本語よりも遙かにコンパクトなものになるだろう。それゆえ学習やコミュニケーションのコストも減るだろうし、類似した言葉の中からひとつを選び取る手間もなくなるだろう。しかし、個々の言葉から延びているはずの広がり、奥行きも、同時に断ち切られてしまうことになる。

<sup>5</sup> 自然言語の語彙の複雑さや曖昧さは、無駄で不必要なものなどではない。自分たちの知識なり発想なりを優に凌駕するほど豊かな

# 令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その二）

な言葉の蓄積があること、そして場合によっては、言葉を新たに造り出したり、外来語を取り入れたりする創造性や柔軟性をもつことは、私たちが受け継いでいる〈生ける文化遺産〉としての自然言語の本質的な特徴なのである。

（古田徹也『いつもの言葉を哲学する』より）

注1 全体主義：個人の権利や利益、社会集団の自律性や自由な活動を認めず、すべてのものを国家の統制下に置こうとする主義。

注2 プロパガンダ：宣伝。特に、ある政治的意図のもとに主義や思想を強調する宣伝。

注3 全面化：すべての方面に及ぶようになること。

問一 — a～j について、カタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 — 1 「医学であれ、工学であれ、法学等々であれ、専門家が扱う問題は、まさにその道の専門家が必要であるほどに、そもそも難しい」とありますが、そのことに對する筆者の考えとして最も適當なものを、次から選んで答えなさい。

ア 専門家の繰り出す表現が難しいものになるのは、たいていの場合には難しい言葉を無駄にこねくり回しているだけの場合が多いのですぐにでもやめるべきである。

イ 専門家が複雑な問題を正確に捉えて問題解決に向けて思考をめぐらすのは当然のことであり、そのためには他者への伝達表現はどんなに難しくてもかまわない。

ウ 専門家はそれぞれの専門家たちの間でだけ話す機会が圧倒的に多いので、おのずと専門用語は発達していくしその表現はより複雑で繊細なものになっていく必要がある。

エ 専門家は専門家以外の人との相互理解のためには難解な言葉は避けるべきだが、その前提となる専門領域における思考と表現については複雑なものになるのは避けられない。

オ 専門家は複雑な問題を扱うことが多く多忙を極めるので、周りから専門家たちに向けられる表現は難しい言葉ではなくなるべく繊細で分かりやすい言葉であることが望まれている。

問三 — (I)「やさしい日本語」と (II)「『ニュースピーク』の違いを説明したものとして最も適當なものを、次から選んで答えなさい。

ア 〈やさしい日本語〉の使用によって、画一的なものの見方どころか、多角的なものの見方を獲得できる可能性があるのに對し、「ニュースピーク」は語彙と文法の簡素化・平易化によってすべての話し手にとって淀みのない滑らかなコミュニケーションを人々に可能にしている。

イ 〈やさしい日本語〉の使用によって、画一的なものの見方どころか、多角的なものの見方を獲得できる可能性があるのに對し、「ニュースピーク」は地域に住む人たちのつながりを強固にし、その結果価値観を画一的なものにしていく可能性が高い。

ウ 〈やさしい日本語〉の使用で画一的なものの見方が可能になり、その結果獲得することができる価値中立的な言葉があるのに對し、「ニュースピーク」は語彙と文法の簡素化・平易化によってすべての話し手にとって淀みのない滑らかなコミュニケーションを人々に可能にしている。

エ 〈やさしい日本語〉は地域に住む人たちの多様性を尊重し、相手の立場に立ったコミュニケーションの推進を目的としているのに對し、「ニュースピーク」は語彙と文法の簡素化・平易化によってすべての話し手にとって淀みのない滑らかなコミュニケーションを人々に可能にしている。

オ 〈やさしい日本語〉は地域に住む人たちの多様性を尊重し、相手の立場に立ったコミュニケーションの推進を目的としているのに對し、「ニュースピーク」は全体主義に適さない世界観や価値観を表現する言葉をなくし、全体主義に適さない思考様式を排除することを意図している。

問四 — (I)『精密コードとしての日本語』とありますが、それを用いた方が良い具体例として挙げた次のア～エのうち、具体例として適當なものはA、適當でないものはBで答えなさい。なお、ここでの「コード」とは「情報を表現するための記号や符号の体系」という意味で用いられています。

ア 人間の心理分析    イ 人工的な共通言語    ウ 相手の立場に立ったコミュニケーション    エ 専門的なレポートや論文

問五 — 2 「同書で繰り返されている主張」とありますが、この主張とは別に筆者が述べている言葉の働きを本文中より二十字以上二十五字以内で抜き出して答えなさい。

## 令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その四）

問六 ― 3 「多くの言葉は、物事に対する特定の見方、世界観、価値観といったものを含んでいる」とありますが、その具体例の説明として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 「土足で踏み込む」という表現は、家などのプライベートスペースに土足のまま入ることに対して強い拒否反応を示す文化内でのみ独特の意味を持ちうる。

イ 「土足で踏み込む」という表現は、他人の私事や領分に、遠慮なく立ち入ろうとすることのたとえではあるが本来の意味とは異なった意味で使われている。

ウ 「かわいい」という表現は、個人的な物事に対する見方を表す言葉であり主体の存在が明確に現れているという点で言語が主体を現すことができる。

エ 「かわいい」という表現は、相手や対象に向けられるものでありその相手や対象の評価がなされるという点で思考を運ぶ単なる手段ではないと考えられる。

オ 「しあわせ」という表現は、日常生活における世界観、価値観を示しており言葉によって概念がつけられるという言語の特徴を最大限に利用している。

問七 【X】に入る語句を、直前の引用文から過不足なく抜き出して答えなさい。

問八 

|   |   |
|---|---|
| A | D |
|---|---|

に入る語として最も適当なものを、次からそれぞれ選んで答えなさい。

ア たとえば    イ しかし    ウ もちろん    エ なるほど    オ また

問九 ― 4 「このひとつの決定によって、果たしてどのような影響が生じるだろうか」とありますが、どのような影響が生じると筆者は考えていますか。その説明として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 架空の新語においては「かじる」のように共通した意味を取り出す利点はあるものの、他の言葉と結びついた言葉の意味を担うことはできない。

イ 架空の新語においては言語学者たちの方針が優先されることになるので、それまで使われていたような自然な言葉遣いができなくなってしまう。

ウ 架空の新語においては両方の言葉に共通する意味以外は除外され、さらには複合語として使われるような言葉の多様な意味も失われてしまう。

エ 架空の新語においては両方の言葉に共通する発音を組み合わせながら記号列に割り当ててしまったため、発音の違和感が生じてしまう。

オ 架空の新語においては両方の言葉に共通する意味だけを取り出してしまうので、それぞれの言葉が持っていた本来の意味と全く別の意味になってしまう。

問十 【Y】には「文字を急いで続けて書くこと」という意味の言葉が入ります。【Y】に入る言葉を四字で答えなさい。

問十一 ― 5 「自然言語の語彙の複雑さや曖昧さは、無駄で不必要なものではない」とありますが、筆者の考えの説明として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 学習やコミュニケーションのコストを減らしたり言葉を選ぶ手間を減らしたりするためには、言葉の複雑さや曖昧さは不要なものとして受け取られてしまっている。

イ 個々の言葉にはその言葉が創られ取り入れられ、さらには用いられてきた歴史的背景が存在しており、そのような豊かな言葉の蓄積は将来に継承されるべきものである。

ウ 言葉には私たちの知識や発想を創り出す力があり、その力を引き出すためにも外来語を取り入れる創造性と柔軟性という言葉の特徴を忘れてしまってはならない。

エ 〈生ける文化遺産〉としての自然言語を守っていくためには言葉を新しく造り続ける必要があり、「新日本語」もその一つの取り組みであるということができる。

オ 自然言語と「新日本語」は本質的な特徴として相性が良くないので、それぞれの特徴を活かしながら現状の日本語に対応するよう変化させていく必要がある。

問十二 次の文章はジョージ・オーウェルの小説『1984』の一部です。次の文章と本文を参照して、「悪い」という形容詞を表すと推論されるニュースピークの語をカタカナで答えなさい。

――これもまた、原則的にニュースピークのすべての語に当てはまるわけだが――どのような語であれ、接頭語「mn（アン）、（否）」をつけることにより否定形となり、接頭語「plus（プラス）・（加）」をつけることで強調形に、「doubleplus（ダブルプラス）・（倍加）」を付けることでさらにその度合を強めることができた。『1984』ジョージ・オーウェル 田内志文 訳 ニュースピークの諸原理より）

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その五）

二 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

伊豆山に、浄土房と云ふ学生ありけり。時の二和尚なり。一位の地位にある僧である年寄りの僧が、一和尚なる老僧、重病を受けたりけるを、訪はんとて

思つて訪ねたところ、

至りけるに、一和尚申しけるは、「法師が死せん事を、いかに嬉しく思すらん」と云ふ。浄土房、思はずに覚えて、「何事にか、

「死にますでしようか。

成りなざる

2 さやうの心さうらふべき」と云へば、「一和尚に成り給はんずればよ」と云ひける。別当などもなくして、一和尚を、別当の如

一方では

くに思へる処なる故に、かくA云ひけるを聞きて、本より3大道心ある僧にて、思ひけるは、4思ひけがされたるも、且つは恥しく

そのまま

自分のすまいを譲つて

がけに小さなすまいを

覚えて、「この老僧の生きたりける時、通世してみせん」と思ひて、やがて弟子に房をば譲りて、5山の岸に小さき庵室を構へて、

後世菩提の行意らず。

後世菩提の行意らず。

後世菩提の行意らず。

そのまま

遺体を

ある時、長雨降りて、震動して、山崩れて、庵室をさながら打ち埋みてけり。弟子共、慌て騒ぎて、「今は云ふかひなし。かばねを

取り出して供養しよう

取りて孝養せむ」とて、土を掘りて見れば、庵室は土に砕けて跡形なかりけれども、浄土房はつつがなうして居たり。7弟子、あま

りの事にて、嬉し泣きにぞ泣きける。

浄土房、物思ひたる気色にて、8あさましき損を取りたるぞや。御分と云へば、「何事の御損かあるべき。御命のおはするこそ

喜びである。

あなた 何の損があるというのでしょうか。 お命が無事でいらつしやることこそ

悦びなれ。御損とは、御庵室の事か。御本尊などの損じておはするぞ」と云へば、「その事にはあらず。幼少の時より、観音の

名前を唱えんと

このような災難、

不慮の死を免れることができること

一声唱えたからだ

名号を念ずれば、かくのごとくの災難、中天免るる事と 思ひ慣れたる心にて、『南無観世音』と、一声唱へたりつる故と

命が助かってしまったけれど、同じ瞬間に、

往生するべきであつたのに、

むだに

覚ゆる。命の助かりぬるを、同じいとまにて、『南無阿弥陀仏』と唱へて、往生すべかりつるが、よしなく命延びて、憂き世に

生きながらえるような事、本当の

長らへん事、まめやかな損を取りたる心地す」とて、涙を流しければ、弟子共も皆、Xを絞りけり。

深く仏道に思いをかけて

早く

心が本当にあつたのであらう。

深く思ひ入りて、この世も身を惜しからず、とく浄土へ参らんと急ぐ心の誠ありけるにこそ。うらやましく、貴くぞ覚ゆる。遂

臨終を迎え、立派に往生したと

に終り目出く往生したりとこそ、申し伝へたる。〔沙石集〕より『浄土房通世の事』

注1 伊豆山：現静岡県熱海市伊豆山にある伊豆山神社のこと。

注2 学生：仏道を修行中の僧。学僧。

注3 法師：僧が使う一人称「私」。

注4 別当：山の寺務を統轄する僧。

注5 大道心：非常に仏教を信じる心。

注6 通世：俗世間を逃れること。

注7 後世菩提の行：死後に極楽浄土に生まれ変わるための修行。

注8 本尊：信仰の中心として寺院の本堂などに安置される仏像。

注9 往生す：死んでのち極楽浄土へ生まれること。

問一 1「法師が死せん事を、いかに嬉しく思すらん」とありますが、なぜそのようなことを言ったのか。その理由として最も 適当なものを、次から選んで答えなさい。

A 自分が死んだとしても、浄土房が一和尚になることはないとわかっていたから。

I 浄土房が今の地位を捨ててこの世を離れたがつていたのを知っていたから。

U 自分が生きているために浄土房が修行にうちこめなかったことを知っていたから。

E 自分が死んだらその後、一和尚の仕事から解放され自由になることができるから。

オ 自分が死ねば、自分のかわりに浄土房が一和尚の位につくことができるから。

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その六）

問二——2「さやうの心さうらふべき」を現代仮名づかに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問三——A・Bの主語（動作主）を、それぞれ次から選んで答えなさい。

ア 浄土房 イ 一和尚 ウ 弟子 エ 観音（観世音） オ 阿弥陀仏 カ 作者

問四——3「大道心ある僧」とは誰のことですか。最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 浄土房 イ 一和尚 ウ 弟子 エ 観音（観世音） オ 阿弥陀仏 カ 作者

問五——4「思ひけがされたるも、且つは恥しく覚えて」とはどのような意味ですか。最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 自分の中にある一和尚を邪魔に思う思いを、一和尚に見抜かれていたことを恥ずかしく思った。

イ 一和尚が自分に対してよしまな思いをもっていたことを知り、彼のことを恥ずかしく思った。

ウ 自分に出世したいという思いがあると、一和尚に誤って思われていたことを恥ずかしく思った。

エ 自分が一和尚の期待に応えられていなかったことを知り、自分の未熟さを恥ずかしく思った。

オ 一和尚が自分を憎んでいたことを知り、何も知らなかった自分を恥ずかしく思った。

問六——5「山の岸に小さき庵室を構へて、後世菩提の行怠らず」とありますが、この行為を別の表現で言いかえた箇所を、本文

中より二字で抜き出して答えなさい。

問七——6「今は云ふかひなし」について、

(1) 現代仮名づかに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(2) 現代語訳として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 今は泣き言を言うことしかできない。 イ 今は誰も気持ちを言うことができない。

ウ 今は何を言えぱいいのかわからない。 エ 今となつては言っても何にもならない。

オ 今は皆で気持ちを言い合うしかない。

問八——7「弟子、あまりの事にて、嬉し泣きにぞ泣きける」とあるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 山崩れに巻き込まれたが、浄土房も彼の庵も無事だったから。

イ 山崩れが起こったが、浄土房はたまたま庵におらず無事だったから。

ウ 山崩れに巻き込まれたが、庵は潰れても浄土房は無事だったから。

エ 山崩れが起こると思われたが、浄土房の庵の近くでは起こらなかったから。

オ 山崩れが起こったが、浄土房は奇跡的に逃げることできたから。

問九——8「物思ひたる気色にて」の現代語訳として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 思い悩んだ様子で イ 悲しそうな声で ウ 気がついた感じで

エ 殺伐とした風景で オ おどろいた雰囲気

問十——9「あさましき損」について、

(1) 浄土房はこの「損」の内容を具体的にはどのようなことだと考えていますか。本文中より二十字以内で抜き出して答えなさい。

(2) 弟子達はこの「損」の内容をどのようなことだと考えていますか。最も適当なものを、次から二つ選んで答えなさい。

ア 庵室にあった仏像が壊れてしまったこと。 イ 山崩れに襲われて死にかけたこと。

ウ 山崩れに遭ったのに死ななかったこと。 エ 庵室が壊れてしまったこと。

オ 南無阿弥陀仏と唱えてしまったこと。 カ 南無観世音と唱えてしまったこと。

問十一——10「観世音」・11「阿弥陀仏」とありますが、両者について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の文章の空欄に当てはまるものとして最も適当なものを、後の選択肢からそれぞれ選んで答えなさい。

(a) とは民の現在の生活を守ってくれる菩薩であり、(b) は民が死んだ後、極楽の世界へ連れて行ってくれる仏である。  
そのため浄土房は、(c) と唱えて (d) べきであったと述べた。

〔選択肢〕

ア 観世音 イ 阿弥陀仏 ウ 南無観世音 エ 南無阿弥陀仏 オ 庵室を守る カ 死んで極楽の世界へいく

(2) (1) のように考える「浄土房」のことを、この本文の作者はどのように評価していますか。本文中より二十字以内で抜き出して答えなさい。

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その七）

問十二 X に当てはまる語として最も適当なものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 目 イ 袖 ウ 数珠 エ 髪 オ 口

問十三 本文の内容として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 浄土房は自分の行く末について悩み続けたが、最後までその悩みから救われることはなかった。  
イ 浄土房は様々な経験をした結果、最後には自分の生き方に自信を持つことができるようになった。  
ウ 浄土房は僧となつてからずっと志を変えることがなかったため、最後には極楽に行くことができた。  
エ 一和尚は自らの身を犠牲にしてでも浄土房を教え導いたため、最終的には彼の魂を救うことができた。  
オ 浄土房は一和尚の発言によって自分の生き方を改めた結果、望み通りの最後を迎えることができた。

問十四 本文の表現の特徴として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 巧みな言葉遊びを本文に混ぜ込むことで、知識のある人物が文章を読んで楽しむことができるようになっている。  
イ 登場人物たちの会話によって本文の内容を展開させることで、登場人物の心情を読者にわかりやすく伝えている。  
ウ 多くの比喩表現を使うことで、現実世界からかけ離れた内容であっても読者が理解できるようにになっている。  
エ 「浄土房」の体験や考えたことを詳しく説明することで、難しい仏教の教えが簡単に読者に伝わるようにしている。  
オ 語り口調で本文の内容を語っていくことで、読者も登場人物と一緒に体験しているかのような共感を感じさせている。

問十五 本文は鎌倉時代に作られた「沙石集」から引用したものです。「沙石集」と同じ時代に作られた作品として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 竹取物語 イ 万葉集 ウ 奥の細道 エ 源氏物語 オ 徒然草

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

列車の中は、国民服やモンペ姿の人達で混み合っていた。立ったままで座席に倚りかかっている者がある。通路に荷物を置いてそれに腰を下ろしている者もいる。

暑い。すでに西陽の時刻でもあった。

二人掛けの座席はいたるところで三人掛けになり、窮屈そうに身を寄せ合った乗客が、はれない顔付きで扇子や団扇を使っている。網棚の荷物を A 気にしている老婆は耳が遠いらしく、隣りの男に、この次はどここの駅かと大きな声でたずねていた。

窓際の席で父親と対い合っているひさし少年は、頑丈そうでもないからだを腰板に押しつけられながら、さっきから歯の痛みをじっと泳いでいるのだが、こんな時は、遠くの席の赤ん坊の鳴き声まで a 耳に立った。

<sup>1</sup> 小学校も最後の夏休みに、父親の出席する葬儀について行ったのはいいけれど、帰りの列車に乗ると間もなく、思いがけない歯痛になった。いつ父親に言い出したものかと、周囲の乗客にも気兼ねして、B 固くなっている。

父親は、扇子を片手に握りしめたまま、反対の手で、時々、胸のポケットからハンカチーフを取り出して額の汗を押えていた。家にいる限り、暑さを訴えることも、寒さを訴えることも滅多にない父親であるが、その父親がこの車内の暑さを耐え難く思っているのはほかでもない。平素着馴れない国民服というものを着用しているのと、列車の窓に鋤戸が下ろされているためだった。

列車は、内海に沿って東に走っていた。

しかし、この鉄道の沿線にはずっと軍需工場が続いているので、乗客はその地域を通る間中、C 暑くても当局の命令通り窓に鋤戸を下ろさなければならなかった。

見るからに暑苦しいカーキ色の服の襟元を詰めて、わざと風通しを悪くした部屋でゆるい目隠しをされているような時間が、D 父親にも耐え難く思われた。

<sup>2</sup> 戦争をする相手の国が増えて、質素と儉約の生活を政府がすすめるのと見合うように、近郊へ買い出しに出掛ける人の数も次第に増えている。現にこの車輛の網棚の荷物も半ばは大きなリュックで占められていた。通路も塞がっているのです、互いに気軽に洗面所へ立つことも出来ない。

ひさしには、座席にいて見渡せる乗客のどの顔も、一様に不機嫌そうに見えた。自分の痛みが嵩じると、人々の不機嫌も嵩じるように思われた。

父親は、工場を休んでの葬儀への出席だった。離れた土地にまでわざわざ一人息子を伴う気になったのは、長い間、親戚以上の懇意で頼り合った同業の故人に、ひさしが特別可愛がられていたのも理由の一つだが、この時勢では、息子を連れて旅する機会も、これからはなくなるだろうという見通しもあったことだった。しかしそれだけは、ひさしにも、母親にも言わなかった。

何年か前までは、家族で避暑地に滞在する生活もあった。けれども父親の見る限り、再びそうした生活に戻るあてはなく、工場

## 令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その八）

での働き手も、一人、また一人と兵役に抜き取られて、次々に戦場に送られていた。工場の規模でさえ、<sup>b</sup> 否応なしに、縮小を迫られる日のそう遠くはないことも、この父親にはすでに充分予感されていた。

父親は、ひさしを伴うのに、葬儀という名目があつて<sup>3</sup> むしろよかったと思つた。それで、葬儀が終わると、<sup>あらかし</sup> 予め頼んでおいた店に寄つて、ひさしに好物の水炊きを食べさせた。

店と言っても、表に看板も掲げていない<sup>（看板）</sup> 居酒屋ふうの造りである。<sup>4</sup> この女将と亡くなった人とは普通の親しさではなかったところから、父親はそれまでも幾度かこの店に案内されていたが、水炊きのよかった記憶がひさしに繋がつて、無理を承知で頼んできた。

ひとしきり思い出話に涙を拭い続けた女将は、こんな時ですから、材料も大っぴらには手に入りませんし、板前も兵隊さんに取られてしまつて、いつまで営業できますやらと言いながら、それでも贅沢な食卓をとのえてくれた。父親はちよつと箸をつけただけで専ら酒をふくみ、ひさしの食欲を満足そうにながめていた。

ひさしは、初めて会った女将の物言いや仕種を見て、他人の死をこんなにまでかなしむのは、きつと優しいひとに違ひないと思つたが、そのうちに、そのかなしみの一と通りでない様子から、自分を可愛がつてくれた人の今まで知らなかった一面を、それとなく知らされた。

あの小父さんは、自分はさきにさようなならしたからいいようなものの、この女のひとはこれからどうやって生きていくのだろう。今日という日に、大事な人のお葬式にも出られないで、同じ土地にひっそり働いている女のひとを知ったことが、ひさしに、漠然とながら<sup>5</sup> 人生の奥行きのようなものを感じさせた。

玄関を出る時、女将は父親に、あまり遠くない時期にぜひもう一度おたずね下さいと言ひ、父親が女将に、あなたもどうぞ気を強く持つて下さいと言っているのをひさしは聞いた。ひさしは、今自分がこの女のひとのために出来るのは、心からお礼を言うことだけだと思つたので、父親のそばからただ一言、

「<sup>6</sup> ありがとうございました」

と丁寧と言つて頭を深く下げた。

町中の掘割を、静かな音を立てて水の流れている町だった。あの世へ旅立つたばかりの人が、今にも後から追つて来そうなその掘割のそばを、父親はもう二度と通ることもないだろうと思ひながら、一步一步を踏みしめるように、黙つて駅に向かつていた。

父親が黙っているのに、ひさしも黙つて少し後から歩いてゐた。靴をはいた父親の歩き方は、和服に下駄の普段の歩き方よりも、ずっとさこなくひさしには見えた。

帰りの列車に乗ると間もなく始まつたひさしの歯痛は、時間が経つてもいっこうに楽にはならなかった。少し前に続けていた治療の際の詰物がとれて、そこに何かの繊維がきつくくい込んだらしい。治療の半ばでほうり出したことも悔やまれる痛み方だった。

対ひの席で時々額の汗を押さえていた父親は、いつの間にか目を閉じていた。隣りの老人に倚りかかれて、心持ちからだを斜に倒している。ひさしの周囲で不機嫌そうな顔をしていた大人達も、列車が走り続けるうちに、振動にまかせて一様に首をかしげ、一様に目を閉じていた。

何とか我慢しよう、とひさしは思つた。父親に訴えたところで、父親も困るだろう。楊枝もなければ痛み止めの薬があるわけでもない。ところが、改めてあたりを見廻してみても、目覚めているのがどうやら自分一人と分かると、痛みは耐え難くつゝてきた。窓の外の景色に気を紛らせるといふわけにもいかなしいし、嗽に立つことも出来ない。

ひさしは、眠っているらしい人達に気を遣つて声を立てず、指で父親の膝をつついた。驚いて目を開いた父親に、ひさしは片頬を片手で押えて、しかめっ面をしてみせた。

「歯か？」

と即座に父親は反応した。眉の間に皺を寄せたままひさしはうなずいた。

父親は、困つた、という表情になつたが、困つた、とは言わなかつた。その表情を見た途端、ひさしは、

「何か挟まっているみたいだけど、大丈夫、取れそうだから」  
と言つてしまった。取れそうな心配もなかった。

今度はひさしのほうが目を閉じた。あと一時間半の辛抱だ。そう自分に言いきかせて、自分の手をきつく抓つた。いつとくして目を開くと、父親が<sup>c</sup> 思案顔で見詰めている。

「まだ痛むか？」

ひさしは、息を詰めたくなるような痛さにいつそう汗ばんでいたが、

「<sup>7</sup> 少しだけ」

と答えた。

すると<sup>8</sup> 父親は、手にしていた扇子を開きかけ、いきなり縦に引き裂いた。そして、その薄い骨の一本を折り取ると、呆氣にとられてゐるひさしの前で、更に縦に細く裂き、

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その九）

「少し大きいが、これを楊枝の代わりにして」  
と言って差し出した。

ひさは、頭から冷水を浴びせられたようだった。その扇子は、亡くなった祖父譲りのもので、父親がいつも持ち歩いているのを知っていたし、扇面には、薄墨で蘭が描かれていた。その蘭を、いいと思わないかと言ってわざわざ父親に見せられたこともある。

ひさは、  
「蘭が……」

と言ったきり、あとが続かなくなった。

父親に促されるまま、ひさは片手で口を蔽うようにして、細くなった扇子の骨を歯に当てた。

熱が退くように、痛みは和らいでいった。ひさしから痛みが消えたのを見届けると、<sup>9</sup> 父親はハンカチーフでゆっくり顔を一と拭きした。それからまた、元のように目を閉じた。

ひさは、自分の意気地なさを後悔した。

父親が惜し気もなく扇子を裂いてくれただけに、責められ方も強かった。うれしさも、ありがたさも通り越して、<sup>10</sup> 何となく情なくなっていた。  
（竹西寛子「蘭」より）

注1 鑑戸：幅が狭く、薄い板を一定の間隔で斜め下を向くような形に取り付けた扉で、日光や風雨をさえる。

注2 軍需工場：この文章の時代背景として、一九三七年からの日中戦争に加え、一九四〇年に太平洋戦争に突入していく時期にあたる。

注3 仕舞屋：以前は商売を営んでいたが、今は商売をやめた家。

注4 掘割：地面を掘ってつくった水路のこと。堀。

問一 ― a「耳に立った」・ b「否応なしに」・ c「思案顔で」の意味として最も適当なものを、それぞれ次から選んで答えなさい。

|          |           |           |          |         |         |
|----------|-----------|-----------|----------|---------|---------|
| a「耳に立った」 | ア 気が晴れた   | イ 気に入った   | ウ 気にかけた  | エ 気が紛れた | オ 気になった |
| b「否応なしに」 | ア 情け容赦なく  | イ あうんの呼吸で | ウ 有無を言わず |         |         |
|          | エ 前後不覚に   | オ 以心伝心で   |          |         |         |
| c「思案顔で」  | ア 心配そうな顔で | イ 悩ましい顔で  | ウ 困った顔で  |         |         |
|          | エ 怪訝そうな顔で | オ 浮かない顔で  |          |         |         |

問二 A B C D に入る語を、それぞれ次から選んで答えなさい。

ア あんなに イ どんなに ウ さすがの エ ちっとも オ おそらく カ しきりに キ すっかり

問三 ― 1「小学校も最後の夏休み」に、父親の出席する葬儀について行ったのはいいけれど、帰りの列車に乗ると間もなく、思いがけない歯痛になった」について、

(1) 列車内の描写に再び戻ったことがわかる形式段落の最初の六字を、本文中より抜き出して答えなさい。

(2) 「思いがけない歯痛」の理由として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

ア 治療中の歯の詰め物が取れたのをそのままにしていたため、食事時には何もなかったものの、列車に乗ってから、その時の食べ物が挟まって刺激したから。

イ 最初から気乗りしない遠方への外出であることと、普段から滅多に自分の感情を表に出さない父親との二人っきりの状況が、気詰まりで仕方なかったから。

ウ 重苦しい空気に包まれた列車の中で、狭い座席に小さくなって座る周りの大人たちの不機嫌そうな様子を目にして、自分自身も次第に息苦しくなったから。

エ 小学校最後の夏休み中に治療するはずの虫歯が、それまではなんともなかったにも関わらず、走り続ける列車の振動に刺激されて、突然痛み出したから。

オ 寡黙な父親を前にして、以前から歯痛を感じていたものの中々言い出せずにいたが、列車内でいざ二人きりになって初めてその痛みを強く自覚したから。

問四 ― 2「戦争をする相手の国が増えて、質素と儉約の生活を政府がすすめる」とありますが、当時の人々の様子がわかる端的な表現を、―― 2より前の本文中より八字で抜き出して答えなさい。

問五 ― 3「むしろよかったと思った」とありますが、なぜ「父親」がこのように思ったのですか。その説明として最も適当なもの、次から選んで答えなさい。

ア 普段は「母親」に気兼ねして行くことのできなかった料理屋に、堂々と足を運ぶ理由になるから。  
イ 戦況の悪化で物資が不足している中、故人を偲ぶというもったもなしな理由で、馳走が食べられるから。  
ウ 時勢が厳しくなる中、今後実現できるとも限らない家族連れの遠出という立派な口実になったから。  
エ 生前仲の良かった故人に可愛がられた「ひさし」を連れていくことは、その人への供養になるから。  
オ 小学校最後の夏休みでも、子どもらしい遊びや外出ができなかった「ひさし」への償いになるから。

令和七年度 帝塚山高等学校入学試験問題・国語（その十）

問六 — 4 「この女将」の人物像の説明として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

- ア 初対面にも関わらず、故人と同じぐらい「ひさし」に深い愛情を注いでくれる子ども好きな人物。  
イ 故人と親密な間柄であっても、悲しみを心に秘めながら自分の立場をわきまえた行動が取れる人物。  
ウ 食材を全て揃えることが難しい折に、店として恥ずかしくない料理を出せるだけの財力がある人物。  
エ 人には明かせない関係だった故人との縁が切れ、今度は「ひさし」の父に頼ろうとするずるい人物。  
オ 故人の死を嘆いたと思えばすぐに楽しそうに思い出話をするのをくり返す、情緒が不安定な人物。

問七 — 5 「人生の奥行きのようなもの」とはどのようなものを説明したものとして最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

- ア 子ども一人ではできなかった、列車で旅をする醍醐味。  
イ 子どもの自分にはわからない、世界情勢からみた日本の戦況。  
ウ 子どもである自分が知らない、経営者としての父親の姿。  
エ 子どもの自分が知らなかった、大人同士の複雑な関係性。  
オ 子どもから大人になろうとする、自分自身の未来の姿。

問八 — 6 「ありがとうございます」とありますが、「ひさし」がこの言葉に込めた気持ちとして最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

- ア 特別親しかった人が亡くなってしまい天涯孤独の身になってしまった「女将」に対して、子どもの自分は今後一人で店に訪れることはできないので、惜別の情を込めた。  
イ 親しかった人のお葬式にも出られない辛さを抱えたまま、その故人とつながりがある客を精一杯もてなす「女将」に対して、子どもの自分ができる最大限の誠意を込めた。  
ウ 料理人も「兵隊に取られてしま」い、材料にも事欠く中、平時と変わらないもてなしをしてくれた「女将」に対して、その並々でない苦勞をいたわる気持ちを込めた。

- エ もう店には来ないであろう薄情な客である自分たち親子にも、常連客と変わらない手厚い対応をしてくれた「女将」の心意氣に対して感服する気持ちを込めた。

- オ 「女将」の、人には隠さねばならない故人との関係性を、人知れず察した「ひさし」だが、決して口外する気はないから安心してほしいという暗黙の了解を込めた。

問九 — 7 「少しだけ」とありますが、なぜ「ひさし」はこのように答えたのですか。その理由として最も適当なものを、次から選んで答えなさい。

- ア すし詰め状態の車内でどうすることもできず我慢していたが、そうこうするうちに自然と痛みが和らいできたから。  
イ 狭い列車内では、誰しも我慢している状況で、自分だけが不快を訴えると「父親」が周囲から迷惑がられるから。  
ウ 歯痛を訴えると、自分の好物である水炊きをわざわざ食べさせてくれた「父親」の愛情を拒絶することになるから。  
エ 我慢しようと思えば我慢できる痛みを、人一倍我慢強い「父親」に伝えると、降車後に叱られると思ったから。  
オ 列車内ではどうにも手当てできない自分の歯痛の具合について、これ以上「父親」を困らせたくなかったから。

問十 — 8 「父親は、手にしていた扇子を開きかけ、いきなり縦に引き裂いた」とありますが、このときの「ひさし」の気持ちがわかる表現を、本文中より十五字以上二十字以内で探し、その最初の五字を答えなさい。

問十一 — 9 「父親はハンカチーフでゆっくり顔を一と拭きした」とありますが、この時の「父親」の気持ちとして最も適当なもの、次から選んで答えなさい。

- ア 安堵 イ 焦燥 ウ 困惑 エ 心配 オ 高揚

問十二 — 10 「何となく情なくなっていた」とありますが、なぜそのような気持ちになったのですか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問十三 本文の作者である竹西寛子は広島県出身ですが、『ヒロシマ・ノート』など核や平和・社会問題に関する著作も多い、日本人で二人目のノーベル文学賞受賞者を、次から選んで答えなさい。

- ア 太宰治 イ 川端康成 ウ 三島由紀夫 エ 大江健三郎 オ 大岡昇平

[illegible][illegible]

受験番号

ここにシールを貼ってください



252110

一

問一

a 方途  
b 腐心  
c 実践  
d かたより

e 付(附)録  
f なめらかな  
g 専制  
h 抽出

i 当該  
j たんいつ

問二

エ 問三 オ 問四 ア A イ B ウ B エ A

問五

伝えるべき「自分の考え」それ自体を生み出すこと

問六

ア

問七

人を熟考へ誘う力も弱まる

問八 A

ウ B オ C イ D ア 問九 ウ

問十

走り書き 問十一 イ

問十二

アングッド

二

問一

オ

問二

さようのころそろそろすべき

問三 A

イ B カ

問四

ア

問五

ウ

問六

遁世

問七

① いまはいうかいなし

②

エ

三

問八

ウ 問九 ア

問十

① よしなく命延びて、憂

問十一

① a 阿 b イ c エ d カ

問十二

② とく浄土へ参らんと急ぐ心の誠ありける

問十三

イ 問十三 オ 問十四 エ 問十五 オ

問十四

エ 問十五 オ

問十五

オ

問一 a

オ b ウ c ア

問二 A

カ B キ C イ D ウ

問三

① 帰りの列車に ② ア

問四

国民服やモンペ姿

問六

イ 問七 エ 問八 イ 問九 オ

問十

頭から冷水 問十一 ア

問十二

自分のために、父親が大切に、後悔

問十三

エ

問十三

エ